学びの道

未来の夢に向けた次の一歩の為に

令和 3 年 10 月 22 日　第 76 号
月見学道　学長　月見和史

中 3 生の修学旅行も終わりました。残るは文化祭です。中止になった学校もありますが、中 1 生も中 2 生も規模縮小を悔やまず、こんな世情の中でも思い出に残る文化祭になる様全力で参加して下さい。必ず大人になってから役に立ちます。

中 3 生も勉強はその次ですが「それまでは遊びなさい」と、言っているのではなく、勉強とそれ以外の時間にメリハリをつけた生活を送って下さい。

受験生にとって、これからは風邪をひいて寝込むだけでも時間的な損をします。
健康管理には十分注意し、よく食べ、よく寝て、よく勉強して下さい。

小 6 の修学旅行はこれからです。前号で中学生向けにお話ししましたが、先生に怒られるくらいハジけて丁度です。たくさん楽しんできて下さい。

小 5 はいよいよ算数の「速さ」と「割合」が始まります。小学生の算数で最も難しい単元で最大の山場です。言葉の使い方が上手ではない生徒は日本語の力不足でここを不得意単元として残したまま中学生になり、中 1 の今頃に数学で挫折します。その可能性が高い 5 年生には既に生徒に直接話してあります。保護者の皆様には私と一緒に勉強する時間の確保のご協力をお願いします。

4 年生以下の生徒達は該当学年で出てくる漢字を書けるようにし、計算をきちんと出来るようにしましょう。5 年生になると全科目の内容が難しくなります。漢字を覚えて言葉を増やす習慣がない生徒達は自分の力で教科書を読んで理解出来なくなってきます。

今号は小学生の勉強について特集します。

大学進学を目指している高校生はそろそろ受験する大学を明確にしましょう。
何度もお話ししていますが将来の為に役立つ大学、学部を選ぶことは出来ません。充実した社会人生活をしている大人達だって、ほとんどの人は今の自分で良いのか自問自答し続けています。結論が出るのは死ぬ間際です。その時に「良い人生だった」と、完結するのです。だからまだ社会人になっていない高校生に自分のなんて決められません。1 つの職業を全うする生き方は既に昭和で終わっています。今は自分の興味や世の中の流れに合わせて仕事も住む街も変えていく時代です。

その為には**独りで生きて行くスキル**が必要です。

人生は決断と選択の繰り返しです。高校進学で選択の余地がなかった皆さんには今がその時です。悩んで、早く決めて、目標に向かって進みだして下さい。

暖房費を値上げします

前号でもお伝えしましたが当教室が購入している灯油が 90 円を超えましたので

11 月分の暖房費から月額 2,200 円頂きます。

11 月分の授業料と一緒にお支払い下さい。

今後は 80 円台になっても毎月 2,200 円です。ご承知おき下さい。

選挙って何ですか

中 3 と小 6 は社会で政治を学びます。その時に毎年**「選挙って何ですか」「国会って何ですか」「えっ釧路でも選挙あるんですか」**と、質問されたり驚かれたりします。

その生徒達の家庭の様子を聞くと、ご両親が選挙速報を見ている姿を見た事がないと言っています。多分そのご両親達は選挙にも行っていないのでしょう。

思想上の制限で選挙に行かない方もいるかもしれませんが、そのせいで子供達は日常の常識として得る知識を余計に勉強する事となります。
簡単に言うと**親が子供の成長の邪魔をしているのと同じ**です。

今月は衆議院議員の選挙があります。是非選挙に行く姿を見せてあげて下さい。どうしても行けなければ **31 日の 20 時から 30 分程度、開票速報を一緒に見て下さい。**

それだけで公民の勉強になります。**親だから出来る子供への学習機会です。**

特集：小学生の勉強

1.高校受験は小学生の時の成績でほぼ決まります。

2.殆どの中学生は中 1 の 4 月の学力テストの学年順位程度で卒業します。

3.中 1 の 4 月の学力テストの成績より落ちる生徒はたくさんいます。

4.中 1 の 4 月の学力テストより成績が上がる生徒は殆どいません。

5.落ちた成績を中 1 の 4 月の時の成績まで戻す生徒はたくさんいます。

世の中で言っている「成績が伸びた」は殆ど 5 番の事を指しています。

小学生の単元テストは

100 点を採れる様に出来ています

クラスの理解度が低いと先生が感じた時にはテストの日程をずらします。

90 点以上で合格。

85 点では解らない所を残しています。

80 点を割ったらその単元は理解していません。

今までの判断基準はどうでしたか。

漢字は

言葉を増やすために覚えます

殆どの小学生は 50 問テストの為に漢字練習をしています。だからテストが終わったら忘れます。湖陵に進学した生徒達の中にも、すぐ忘れてまた覚え直す生徒はいました。

言葉を覚えないのですから、そのままにしておくと中学校の教科書を読んでも「漢字が読めない」「言葉の意味が分からない」と、自分で勉強を進められなくなります。
読めない教科書は国語にとどまらず、社会、理科、数学と全般にわたります。

言葉を覚えないのですから、先生達がしゃべる言葉も分からないので授業を聞いても何を言っているか分かりません。

さらっと書きましたが結構深刻な問題です。

いつも 100 点を採っていても
中１の４月で上位と中位に分かれます

上位になる生徒は自分で考えている生徒です。

中位になる生徒は言われた事を守っていただけの生徒です。

中１生のご家族と面談した際によくあるお話です。

母１「小さい時は何でも言う事を聞く良い子だったのに、最近は反抗してばかりで悪い子になったんですよ。」

母２「小学生の時は成績が良かったんですけど、中学になってから全然だめで。」
私　「小学生の時のテストの点数は何点くらいだったんですか。」
母２「大体どれも８０点以上は採っていました。」

母３「週１回しか通えないんですけど５教科見てもらいたいんですよ。」

母４「私がこの子の１００点を欲しいんです。」（これは４年生の母親）

母５「言われた通りの回数通ったのにテストの点数上がらなかったんですよ。」
私　「一度も学校のワークを持って来なかったんですが。」

ほんの一例です。

どのお母様も自分の物差しだけで子供を測っています。客観性が有りません。

教育と言っても結局は子育てです。
子育ての主語（主役）は「子供」です。「私」ではダメなのです。

漢字の練習

前述した通り**漢字を覚えるというのは言葉を覚える事**です。
小学生の時に雑に扱っていたせいで、中学校の教科書が読めない生徒がたくさんいます。一昔前は漢字が読めて熟語の意味が分からなかったのですが、最近は漢字そのものが読めません。

国語と社会では漢字が読めないので先に進めず、理科では実験の様子をイメージ出来ず、数学では論理的な手順を自分の言葉で説明出来ません。それよりなにより私が教えるために使う言葉が伝わりません。

例えば 6 年生で

無尽の　彼は　働きを　ジュウオウ　した

「カタカナを漢字に直して文節を並び替えて意味が分かる文にしなさい」と言う問題で

彼は　無尽の　働きを　ジュウ王　した。

と、答えました。

意味を聞いたところ、

彼は無人で働く獣王だ。ケモノは習っていないので書けません。

だそうです。

縦横無尽を知らない、又は予測出来ない、獣は小学生で習いませんが 6 年生用のワークですから習わない漢字は出てきません。これでもどの教科の単元テストも大体 90 点以上採る生徒の話です。

朝の読書の時間が設けられているので、昭和の時代の子供より今の子供の方が読書しています。しかし読んでいる本に問題があります。最近発行されたライトノベル又は児童向け物語は売る事を第一にしているので言葉が簡単で漢字を使わない様に書かれています。翻訳家のお話ですが原稿を提出すると「もっと易しい言葉にして下さい。」と、出版社から書き直しを指示されるそうです。これが現実です。

昭和の子供にとって漫画は**「画が付いている読みやすい本」**でしたが

今の子供の中には**「画が動かない分かり難い本」**と、言う子もいます。

読書の時間の本は出来るだけ昭和に出版された本を読ませるようにして下さい。

算数の練習

小学生の保護者からお問い合わせが来た場合、

大抵は**「算数の計算は出来るのに文章問題が出来ないんです。」**と、お困りの様子をお話しして下さります。
稀に学年が低かったり、発達障がいだったりする場合は「計算が出来ない。」と、悩んでいらっしゃいます。

小学 4 年生までは、

整数、小数、分数で、足し算、引き算、掛け算、割り算の計算が出来るようにする

これが算数の目的です。

その際、数字や計算の概念を教えなければなりませんが、前述したように言葉を覚えて使ってくれないと何を教えても受け取ってもらえません。

過去に「宇宙って何ですか」と質問されました。
宇宙は概念なので宇宙そのものと置き換えられる言葉がありません。
「赤」を言葉で説明出来ないのと同じです。

4 年生までは計算の練習だけでなんとなく済んでいましたが、5 年生からはそれらを使って自分で式を立てる勉強が始まります。**ここで言葉を連ねて、言葉を重ねて、論理的思考が出来ない生徒達が「文章問題が解けない」状況になるのです。**この生徒達は「何算使うんですか」と質問してきます。

何算を使うのか自分で考えるのが 5,6 年生の勉強です。

算数を進めるためにも国語の勉強は必要不可欠で、生徒の状況によっては国語を優先しなければなりません。学校の授業で全部理解して帰って来るなら何の心配も要りませんが、元々苦手な事があって入塾した生徒の場合、毎日通ってくる生徒でも教室にいる時間が短いと、何度か学校の授業に追いついたように見えても、その内うっすらと遅れてきます。この様な傾向が見えてきたら生徒を通じてスケジュールの検討をお願いしています。

人間は学んで生き残る戦略を取った生き物です。生きる上で大事な事は子供時代に覚えます。寿命が長くなれば子供時代を長くしようとします。人間、象、クジラなど天寿を全うし易い動物は胎児も子供の時期も長いです。そうして学ぶ時間を長くしています。

戦中の日本人の寿命は 50 歳、戦後 60 歳になり、今は 80 歳を優に超えていて、これからは 100 歳時代だと言われています。

今の子供の成長が遅いのは学ぶ時間を増やすためです。年々中高生が幼稚に見えてくるのはきっと事実でこういう理由からだと思われます。
残念ながら 15 歳になれば高校受験があるのは今後も変わりません。昭和の子供達にとってはここでふるいにかけられた感がありますが、今の子供達の中には高校生以降で伸びる生徒もたくさん現れるでしょうから、今頑張りが聞かない子供なら「ゆる高校受験」でも良いのかもしれません。子供は一人ひとり成長するスピードが違いますので、それを認めてあげるのも必要なのかもしれません。

当教室のコンセプト「教えて育てるもう一つの家」はこれらを具現化したものです。どうしても該当学年通りの成長をして欲しいと願っている方は是非「進学塾　月見学道」にコース変更してバリバリ勉強して下さい。

小学生に必要な勉強

子供時代には色々な事をたくさん経験させるべきです。
「何が大事か」ではなく「なんでも体験させる」それは成功だけでなく失敗も含めてです。

毎日塾に通った方が良い様にも受け取れる事を前述しましたが、それは出来ない単元を出来るようにしたい目的がある時に必要な事で、「今出来ている」「もう少し時間がかかっても良い」ならまた話は別です。今はその別の話をしています。

釧路市はローカルですが生活は都市型です。釣りやキャンプなどで自然と触れ合うのは貴重な経験です。旅行の移動も手間はかかりますが列車や船を使うといつもと違う感じが味わえます。理想は大人が用意したものではなく、子供自身が面白そうだと見つけて遊んだ体験です。きっと子供に任せるのが一番なのだと思います。親には試練ですが。